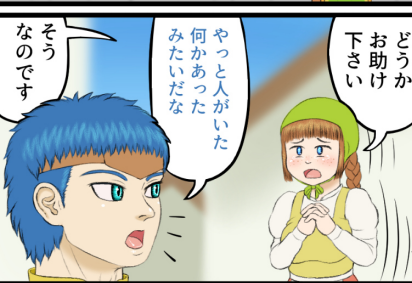




七  
死  
罪  
人



やっと人がいた  
何かあった  
みたいだな

どうか  
お助け  
下さい

そう  
なので



この村…妙だな…  
人の姿が見当たらない

うーむ…

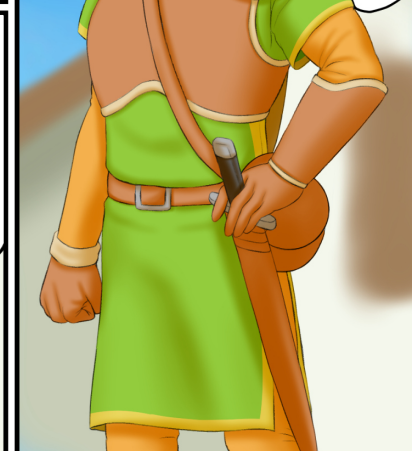
その旅のお方!!



先日魔物を率いる  
オーガが現れ村の皆を  
さらって行ったのです…

なるほど  
そういう事なら  
このアランが喜んで  
協力しよう!

これは冒険者として  
名を売るチャンス!!





本当ですか！  
ありがとうございます！  
オーガ達は北に去って  
行くのを見ました  
村の北にある山の洞窟に  
行ったのかもしれない……



ここ……  
だろうか……？

おやおやあゝ？



侵入者さんですねえ？  
今すぐ立ち去らなければ  
容赦しませんよお？



こんなデカイスライム  
初めて見たぜ



なんか守って  
そんな口ぶりから  
オーガの住処は  
ここに違うない！



す...よ.....?



おやおやおやあ？  
構えましたねえ？  
後悔しても遅いで...



この感じなら  
オーガも余裕  
だろうな



<sup>弱点</sup>  
核を斬れば  
一撃なのには  
変わりない

大きくても  
スライムは  
スライムだな

むぎゆうう.....



うわああつ!?



何いつ!?

「クソ!! なんだこりゃ!? 動けねえ!!」

「ふっふっふう!♥  
油断しましたねえ?」



「別のが隠れてやがったのか!?  
出て来やがれ!!」





「いえいえ、さっき切り裂かれたのは私ですよお?♥」

「なに!? なんで生きてやがる!?」

弱点  
核を斬った小ズなのには!」

「いやらん」



「確かにスパツと斬りましたねえ♥」

このラミイお手製偽物の核を♥  
弱点

「偽物だど!? ふざけやがって!!!」

この…放しやがれ!!!」



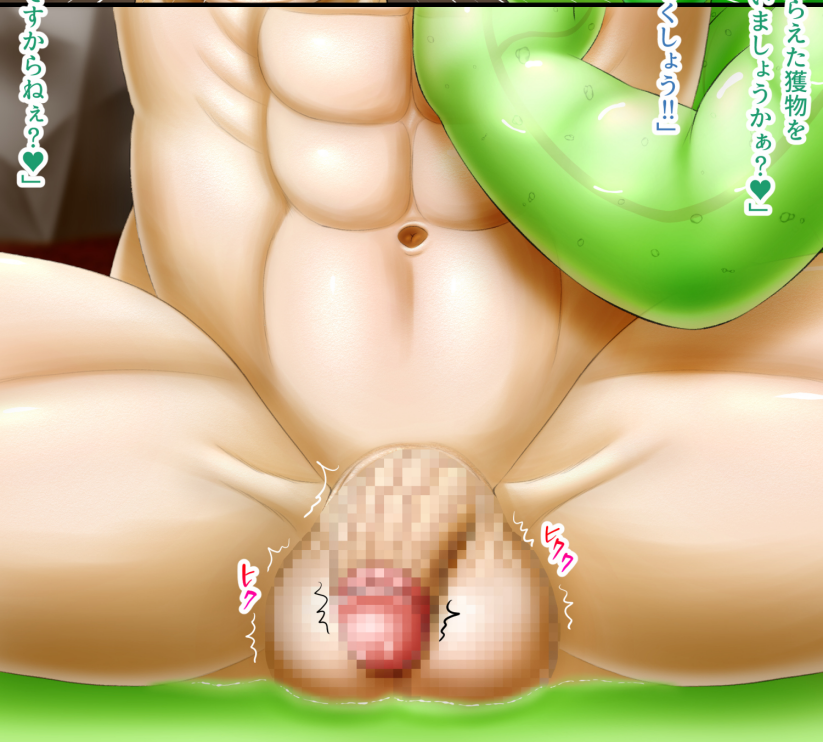




「武器を隠し持ってちや危ないですからねえ?♥」

ギャーア

「んっふふふう〜♥ せっかく捕らえた獲物を逃がす様なお人好しがどこにいましようかあ?♥」  
「クソツ!! そらそうだろうな!!  
っか  
と云うかなんで裸なんだ! ちくしょう!!」



ビク

ビク







「んれろお♡ おやおやおやあ？♡  
ちよおっとイジつただけなのに  
あつと言う間にビンビンですよお？♡  
期待しちゃつてましたかあ？♡」

「んおああ…ふざけんな!! んんむ……」







「んチュウうう♡ チュむむ♡  
んふふふう♡ おち◎ちん  
ピクンピクン跳ね回って  
喜んでますよお♡」



「んんんっ!? んむうううっ!!」

ピク

ちゅむ

ピクン

ピクン

ピク

ピク

ピク

ピク

ピク

ピクン

ピクン

ピクン

もみゅ

もみゅ

「んっふふふふう〜♡ あつと言つ間にやる気に  
満ち溢れたおち◎ちんが出来上がりましたねえ♡  
そんなに私と繁殖したかったですかあ?♡」



「な…!? ふっせけんなの!!  
誰がお前なんかと……!!」



「またまたあく〜♡ 素直じゃありませんねえ〜♡  
ほお〜ら♡ おち◎ちんの方はこうやつてちよおつと  
握っただけでこんなに喜んでいきますよお〜♡」



「んぐうう!? だ… 黙れえ……!」

ビクッ

ギクッ

シコッ

シコッ

ビクッ

ビクッ

シコッ

ビクッ



「んむう〜… 分かりましたよお…  
黙りますよお……」

「嫌に素直だな……」

にやろん

「んおっ!? おいっ!! 何してる!!」

「黙ってたら口寂しくなったんですけど丁度いい  
啜え甲斐のありそうなモノがあったのでつらら♡」



「なに言ってやがる!? さつさと離れる!!  
もう二回ブツた斬んど!!」

あぁーん

「んふふう〜♥ どうぞお〜♥  
できるものならやってみてくださあ〜♥  
んあああああ〜ん♥」



ピク

ピク

ピク

ピク

「あむっ♡」

はっ♡

はっ♡

「あっ♡」



「んふふふふう♡ どうしたんですかあ？♡  
ズバッと斬って貰って構わないんですよあ？♡」

もも

「んああああつ!! 調子に乗りやがっつてえ.....!」





「んふふふう♡ 可愛い声で鳴くんですわね♡  
もおじつと聞かせてくだねら♡」

しゅぽぽぽぽぽぽぽぽぽぽ  
ちゅぽぽ

ちゅぽぽぽぽぽ

ぽぽぽぽぽぽぽぽ

ぽぽぽ

ぽぽ

ぽぽ

ぽぽ

「ぐああああつ!? やめ……!  
止まれっ!! んぐああああつ!!」





「だから次はこっちで可愛がつてあげますよお♡」

# どたばらん♡

「んおおおおっ!？」



びん

びん

もにゅ

むちゅ

むいゅ

おちゅ

むいゅ

びん

びん







「つぶあああああつ!?!」

ずん

「ざあんねえくん♡  
止められませえくん♡」

ぶちゅん









「ちゅるる♥ れるれるお♥

逝きたい時はいつでも射精して構いませんよお♥

しい♡つかりとあなたの子を孕んであげますからねえ♡」

ブォン

ブォン

ばちゃん♡

ばちゃん♡

むちゅちゅ

ぶいゅ

びゅ

びゅ

びゅ

「んぶおつ!? ふ…ふさげんな!! んむぐぐつ!!!」

「ぶちゅうう♥ 私はいつだって真面目ですよお♥」



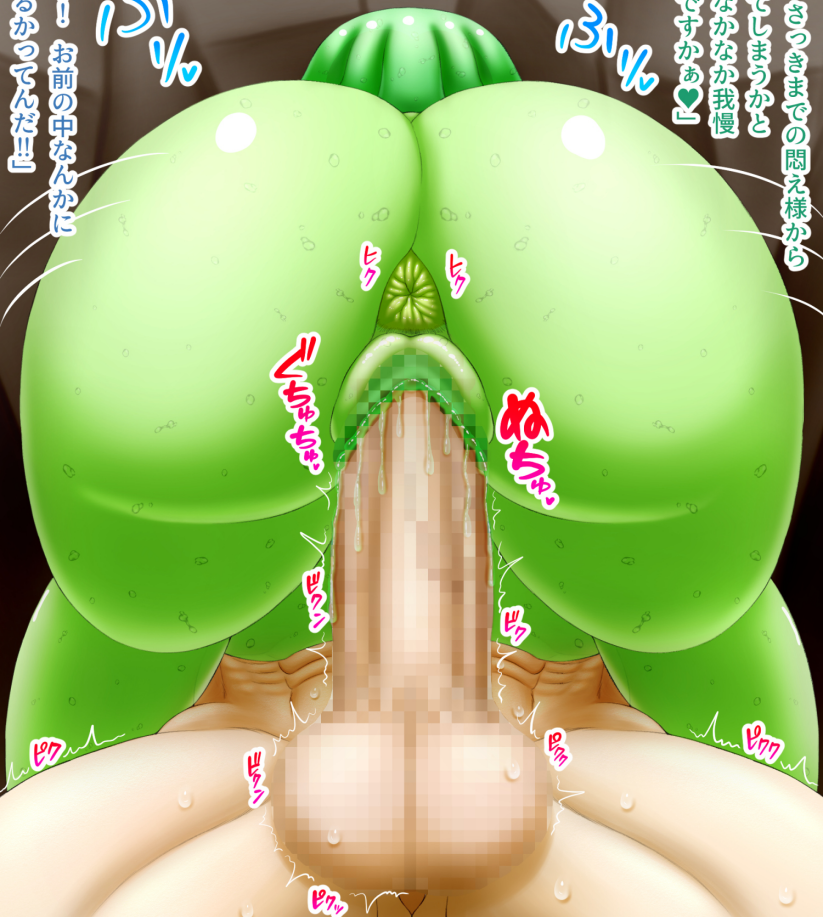


「んふうく…♥ さっきまでの悶え様から  
すぐに射精してしまおうかと  
思いましたがなかなか我慢  
強いじゃないですかあ♥」

131%

131%

「つたりめえだ…！ お前の中なんか  
射精してたまるかっつてんだ!!」



ぐちゅちゅ

ぬちゅ

ピク

ピク

ピク

ピク

ピク

ピク

ピク

ピク

ピク



「全くう… 少おし褒めて上げただけですぐに調子に  
乗っってしまうから手に負えませんねえ……  
そこが人間の可愛い所でもあるんですけどねえ♥」



「ぐおお…！ うるせえ…！ すぐに思い知らせてやる…！！」



「んふふうく?♥ どんな思いを知らせてくれるんですかあ?♥  
気になりますねえく?♥ 早く思い  
知らせてくださいよお♥  
ほらほらほらあく♥」

ガッ  
ガッ



「んぐあああつ!? う…動くな…!!! うあああつ!!!」

チン  
バチン

「んふふふう♡ 生意気な所も可愛いですがこのから  
ゆう〜つくりと私好みに調教していきましようねえ♡  
んん〜♡」

# ばちゅ

「んぐう…! うあつ! よ…寄るな!?  
んんむう! んむああ!!」

「んちゅう♡ ちゅむむ♡ おやおやあ?  
ちゅぶ ♪ びゅ ♪ びゅ ♪

ちゅむ

むちゅ



おち◎ちんがピクンピクンしてますよお?  
ピクン ♪ びゅ ♪ びゅ ♪

「絶頂きそうなんですわねえ?♡」

ピクン

ピクン

ピクン

ピクン

ピクン

「それじゃあトドメを刺しちゃいますかぁ♥  
活きの良い精子ドっピンドっピン  
射精<sup>だ</sup>してくださいねえ〜♥」

ぬりゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

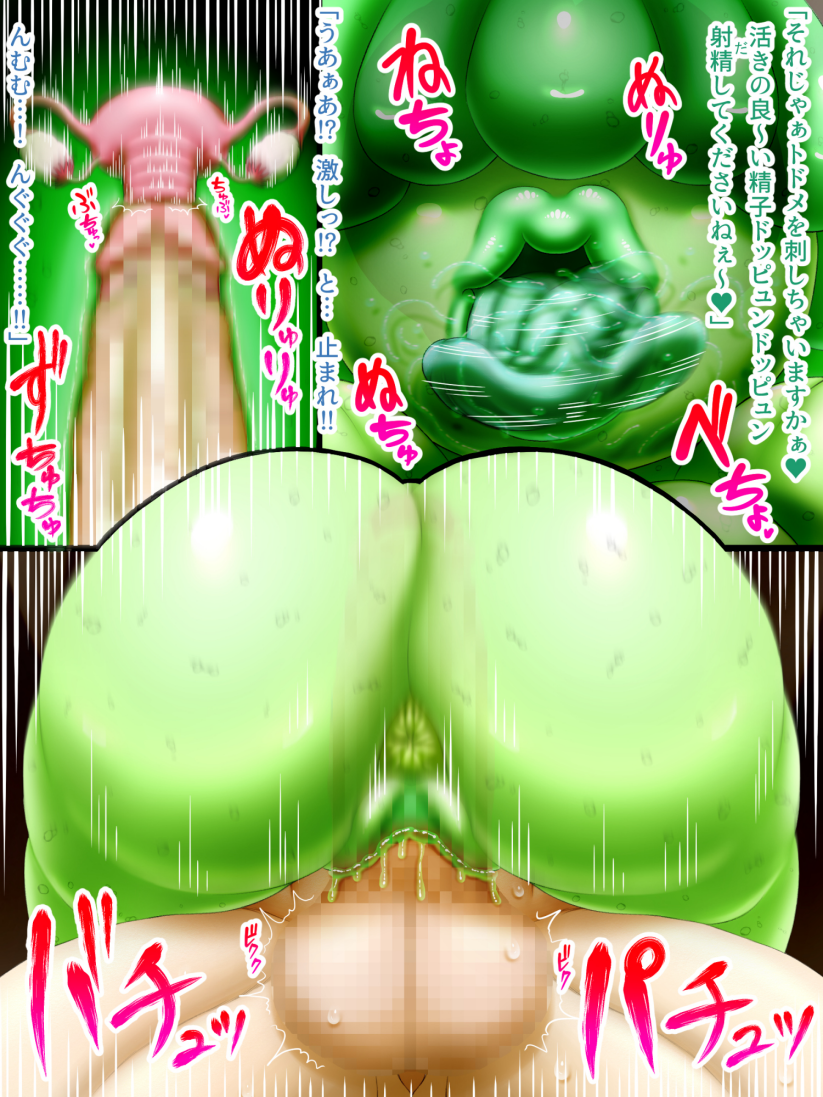
ぬりゅ

んむむ……んぐぐ……!!!

ずちゅちゅ

パチュッ

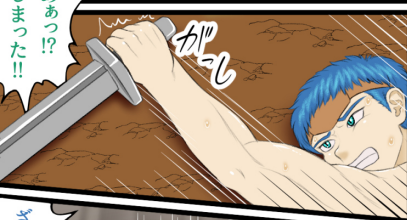
パチュッ











あ、の核も偽物でしたあ、次は騙せないでしようし、ここが潮時ですよ

そっ、そっ

服が無事  
たっただけ  
マシと  
考えるか

オラあつ!!